

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	熊本市新市街ホテル・店舗複合開発	階数	地上12F		ス等 貼り付けは、 シートへ貼り付けしてください。
建設地	熊本県熊本市中央区新市街8-5	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	760 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	物販店、飲食店、ホテル、	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2020年3月3日		
敷地面積	2,527 m ²	作成者	遠藤		
建築面積	1,847 m ²	確認日			
延床面積	15,623 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

BEE = 1.4

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

★★★★★

排出率

37%

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

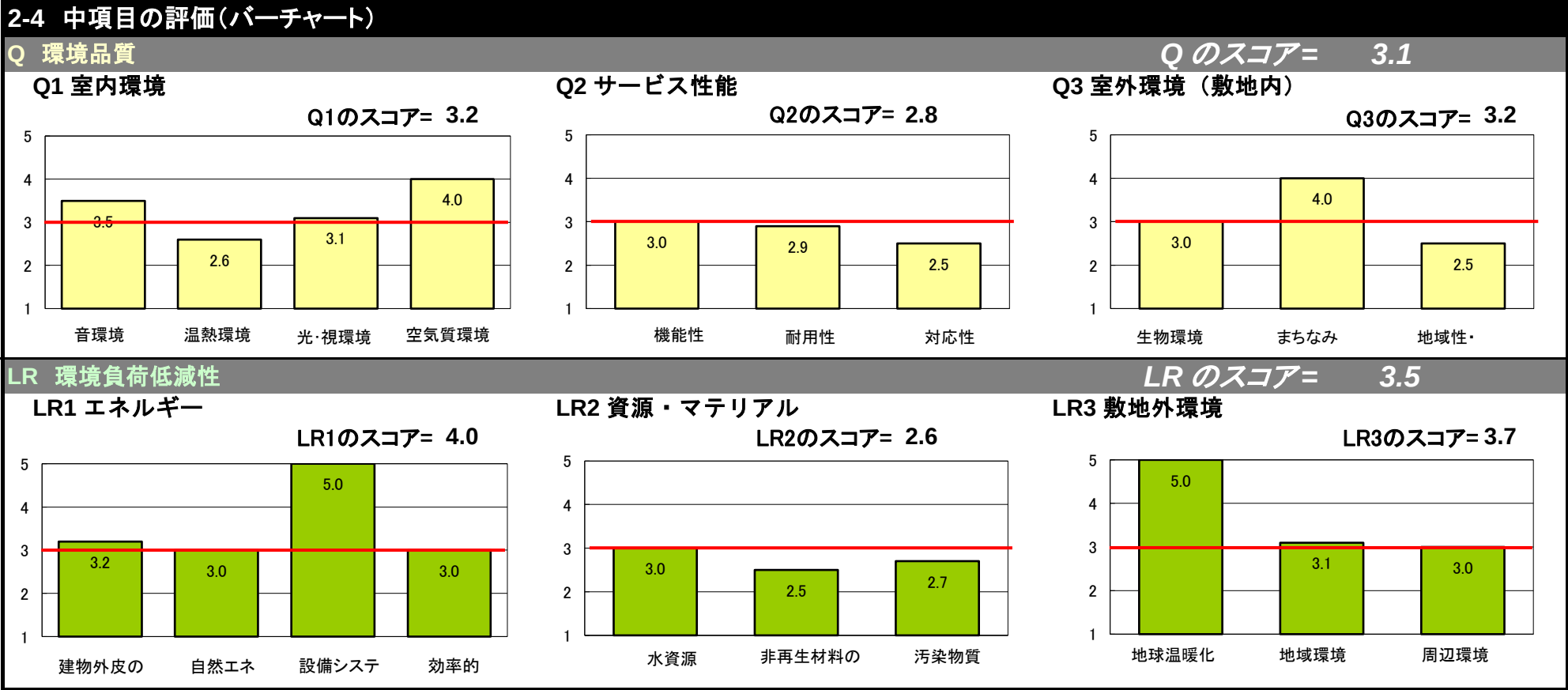
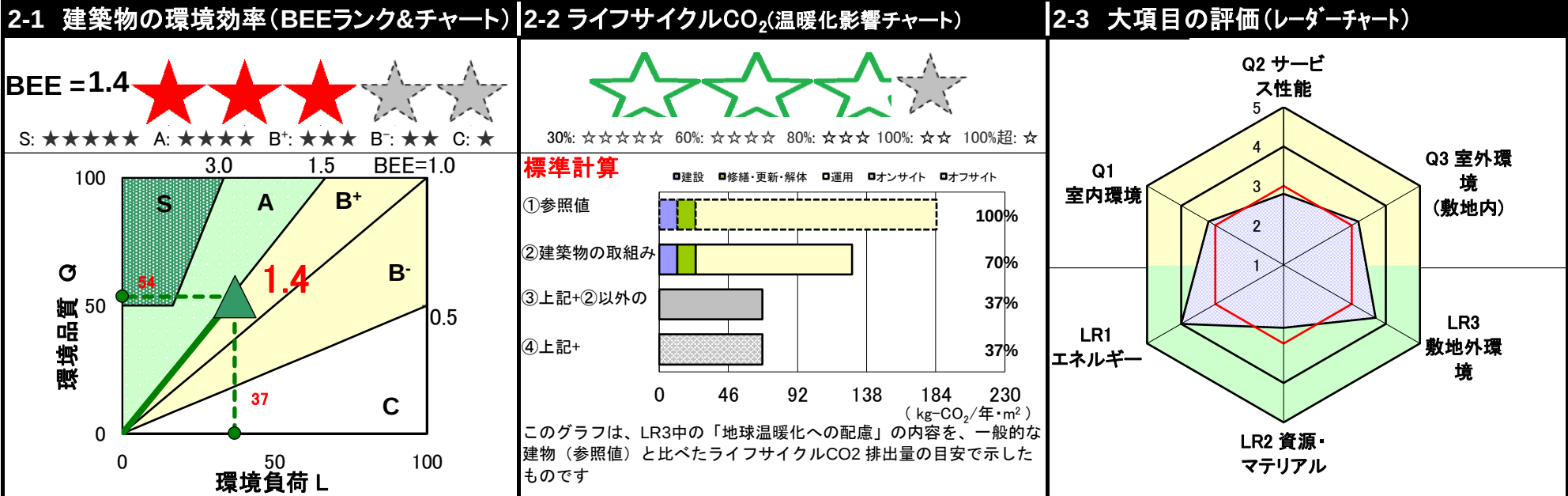
重点事項総合評価			評価点
   			80
	評価点	熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	93.2	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	72.5	100点以上	    
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	72.5	80点以上100点未満	   
【重点事項4】 循環型社会の実現	66.7	60点以上80点未満	  
		40点以上60点未満	 
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本市新市街ホテル・店舗複合開発	階数	 ス等 付けるときは 保護を解除してください	
建設地	熊本県熊本市中央区新市街8-5	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	物販店、飲食店、ホテル、	評価の段階		
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日		
敷地面積	2,527 m ²	作成者		
建築面積	1,847 m ²	確認日		
延床面積	15,623 m ²	確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
熊本市新市街ホテル・店舗複合開発 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						3.8	0.15	3.4	1.00	3.5
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						5.0	0.40	4.0	0.40	
1		開口部遮音性能		周囲の騒音を遮るためT-2(30等級線)を適用		5.0	0.99	5.0	0.30	
2		界壁遮音性能		周囲の騒音を遮るためDr-45を適用		5.0	0.01	3.0	0.30	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		ホテル内での静かな環境作りのためを適用		-	-	5.0	0.20	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						2.7	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御						3.3	0.50	3.0	0.50	
1		室温				3.0	0.40	3.0	0.57	
2		外皮性能				3.0	0.23	3.0	0.43	
3		ゾーン別制御性		建物全体の空調システム、室内の空調システムの2つを導入してい		4.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.8	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用						3.9	0.35	4.2	0.30	
1		昼光率		窓を極力大きく取る等		5.0	0.49	5.0	0.60	
2		方位別開口				-	-	-	-	
3		昼光利用設備				3.0	0.51	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						1.0	0.24	3.0	0.30	
1		昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.12	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.29	3.0	0.25	
4 空気質環境						4.0	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策						5.0	0.50	5.0	0.63	
1		化学汚染物質		放散量の少ない建材を使用している		5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.30	2.3	0.38	
1		換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2		自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3		取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1		CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2		喫煙の制御				3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						4.0	0.40	2.2	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	1.0	0.60	
1		広さ・収納性				-	-	1.0	0.50	
2		高度情報通信設備対応				-	-	1.0	0.50	
3		バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	4.0	0.40	
1		広さ感・景観		1、2階の階高を大きく取り、開放的な物販スペースを計画		5.0	0.07	3.0	0.50	
2		リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3		内装計画		照明計画をパースで検討、12階共用部は石等天然素材を使う		5.0	0.93	5.0	0.50	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1		維持管理に配慮した設計		受水溝上部にマシンハッチを設け維持管理している		5.0	0.50	-	-	
2		維持管理用機能の確保		清掃用資材を保管するスペースを計画している等		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1		耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2		免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.1	0.30	-	-	
1		躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		壁:ビニルクロス貼り20年等		4.0	0.10	-	-	
4		空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5		空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6		主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1		空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2		給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3		電気設備				3.0	0.20	-	-	
4		機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5		通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.8	0.30	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり			3.0	0.06	1.8	0.50	
	1	階高のゆとり	3.0	0.60	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	3.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.06	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		2.8	0.89	-	-	
	1	空調配管の更新性	2.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		敷地東側に大きく公開空地を取り、街に浸透させる等	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.95	3.2	0.20	-	-	3.2
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI]/[BEI _m] = 0.65	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.6	0.70	-	-	
	1	消火剤	2.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		建物周囲を緑化する等	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	立体駐車場を整備						
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

外装は落ち着いた色の採用など周辺の調和を乱さないよう配慮した。
アーケードに接しており利便性の高さを提供できる建物とした。

Q1 室内環境

窓を大きくとり採光を効率よく取れるようにした。

Q2 サービス性能

1階2階の店舗、飲食部は階高を高く設定し空間にゆとりをもたせ、アーケードとの連続性を考慮している。また熊本城の展望を多くの来客に体感出来るようにするため、最上階にレストランや露天風呂を設置。

Q3 室外環境（敷地内）

建物外部に樹木を配置し自然環境に配慮している。緑地を敷地周囲に設け自然環境とつながるような計画を目指している。

LR1 エネルギー

LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。建物建材を極力長寿命の物を採用。

LR2 資源・マテリアル

躯体と仕上げ材を容易に分別可能な設計とし、リサイクルの促進を図った。

LR3 敷地外環境

東側道路沿いに幅4mの歩道状公開空地を設け、ゆとりある歩行空間を確保する。立体駐車場を外部から見えにくい場所に配置し、間接的な照明を使い夜間の景観を損なわないような計画にしている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本市新市街ホテル・店舗複合開発 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.2	0.40	37.28
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.2	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				72.5	0.20	14.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				66.7	0.20	13.34
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数